

「豊かな生活を創るアイデアバッグ」コンクール

令和8年1月31日（土） オンラインにて
(本部は上田市立第五中学校被服室に設置)

全国4ブロックから選抜された 9名の選手が事前に製作したアイデアバッグをオンラインにてプレゼンテーションします。バッグ本体の全部または一部に、家庭にある自分または、家族の衣服をリメイクする工夫が見所です。今年度はリアルで一堂に会することはできませんが、生徒の自信作をご覧ください。

＜日程＞

1月31日（土）

12:45～ 競技者接続開始・出席確認

13:00～ (1) 開会式

① 開会の言葉 ② 主催者挨拶・審査員の紹介 ③ プrezent上の注意 ④ 閉会の言葉

13:15～ (2) プrezentーション

① 発表会の生徒の動きについての説明 ② プrezentーション発表

(3) 閉会式

① 講評 ② 今後の予定について ③ 写真撮影 ④ おわりの言葉

15:00～ 作品審査

2月1日（日）

・表彰は行わない

・結果は「全日本中学校技術・家庭科研究会 (<http://www.aigika.ne.jp/index.html>)」に掲載

＜競技について＞

(1) 競技の課題について

『バッグ（ショルダーバッグ、トートバッグ、リュックサックなど）』とする。

(2) 使用する布について

・バッグ本体の全部または、一部に、家庭にある自分または、家族の衣服を用いる。その他、衣服以外の布などを加えてもよい。

(3) デザイン及び機能について

・衣服の一部をそのままの形で1つ以上活用する。（例：ポケットの形状やボタンをそのまま利用するなど）
・『バッグ』の口を閉じられるようにして、中身が出ない工夫をする。

(4) 縫製について

・入れるものに必要な強度が保たれるように、布目の方向や縫い目の大きさ及び縫い代の始末の仕方などを工夫する。
・バッグのいずれかの部分にまつり縫いを取り入れる。
・スナップは、必ず1つ以上付ける。
・3時間程度で製作できる作品とする。

(5) レポートについて

・レポートには、「テーマ」、「構想」、「自分や家族の生活を豊かにする視点」、「私にとってのものづくりの視点」と「衣服の再利用の工夫（どの部分をどのように活用するか）」その理由を明記すること。また、まつり縫い・スナップを取り入れた部分を明記すること（朱書きする）。
・解体前の全体像を、写真またはイラストで表す。

(6) プrezentーションについて

・当日はオンラインにて「製作した『バッグ』について、3分以内の発表を行う。その際、利用方法、「自分や家族の生活を豊かにする視点」「私にとってのものづくりの視点」、「衣服の再利用の工夫の視点」から発表をする。その後審査員から作品や製作について2分程度質疑応答を行う。
・プレゼンテーションは「zoom」でできること全てを認める。

＜出場者一覧＞ ※発表順は後日決定

No	ブロック	学校名	氏名	学年	作品名
1	関東甲信越	松戸市立第一中学校	山田 こはな	2	アイデアは無限大！～仲間と共に考えた9年越しのアップサイクルバッグプレゼント～
2	関東甲信越	松戸市立第一中学校	渡邊 韶	2	母に捧ぐ愛情バッグ～それぞれの良さを生かした知恵と工夫満載のバッグ～
3	東海北陸	瑞穂市立穂積中学校	梶川 結妃	3	携帯酸素ボンベと楽しくおでかけ キャリーバッグ&リュック
4	東海北陸	富山大学教育学部附属中学校	國枝 沙羽	2	非日常から安心を取り戻せ！弟に贈る防災バッグ
5	中国四国	鳴門教育大学附属中学校	蔭山 二瑚	1	生活を豊かに！フィットネス用バッグ
6	中国四国	鳴門教育大学附属中学校	立川 愛子	1	インテリアになじむ！散歩用バッグ
7	九州沖縄	福岡市立元岡中学校	黒木 麻矢	3	少しでかけるとき用のかばん
8	九州沖縄	中城村立中城中学校	義間 沙来	2	サスティナブルバッグ
9	開催県	佐久市立中込中学校	上野 瀧子	3	長く使える丈夫なバッグ

＜審査項目＞

評価項目		評価の内容
レポート 【45点】	記述内容	「自分や家族における課題」、「解決方法（衣服等の再利用を含む）」、「期待される効果」、「製作工程」、「型紙の配置」、「まつり縫い・スナップを取り入れた部分」を具体的に記述しているか。
縫製 【35点】	縫い代の幅と始末の仕方	・布やバッグの部位に応じて、適切な幅であるか、縫い代を適切に始末しているか。
	ミシン縫い	バックの部位に応じて、縫い目の大きさや強度が保たれる工夫をしているか。
	手縫い（まつり縫い、スナップ）	・まつり縫いが適切にできているか。 ・スナップを適切に付けているか。
	出来栄え	・作品の出来栄えはどうであるか。
発表 【35点】	発表内容	実際に入れるものを使い、テーマで意図したことと3つの視点から具体的に説明しているか。 ・「自分や家族における課題」 ・「解決方法（衣服等の再利用を含む）」 ・「期待される効果」 3分以内の発表と2分程度の質疑応答を行う。
衣服の再利用 【30点】	デザイン及び機能性	・衣服の一部の利用は、テーマに応じたデザインになっているか。 ・衣服の一部の利用は、テーマに応じた機能を満たしているか。 ・使う人の立場に立った工夫がされているか。

＜審査員＞

氏名	所属
石垣 理子	審査員長・昭和女子大学環境デザイン学部教授（日本家政学会被服構成学部会長）
高木 幸子	元新潟大学教職大学院教授（日本家庭科教育学会副会長）
坂本 久美	山梨県総合教育センター指導主事（山梨県審査員）
大滝 由紀子	長野県総合教育センター教科教育部専門主事（長野県審査員）